

令和2年度 沖縄県若年性認知症推進事業 沖縄県若年性認知症支援者研修会

会次第

オンライン研修 (14:00～入室可)

1. 事業報告(14:30～)
2. 「認知症になつても 働ける」
3. 質疑応答 (16:00 終了予定)

2021. 2. 26 支援者研修会

「認知症になっても 働ける」



※（写真掲載）資料への掲載について本人・家族へ確認を行い載せております。

沖縄県若年性認知症支援推進事業

沖縄県若年性認知症相談窓口（特定医療法人アガペ会 新オレンジサポート室）

令和2年度 沖縄県若年性認知症支援推進事業

事業説明



沖縄県若年性認知症相談窓口（特定医療法人アガペ会 新オレンジサポート室）

●新オレンジプラン基本的考え方

- ・高齢者の約4人に1人が認知症の人又はその予備軍。高齢化の進展に伴い、認知症の人は更に増加
- ・2012（平成24）年462万人（約7人に1人）⇒2025（令和7）年約700万人（約5人に1人）
- ・認知症の人を単に支えられる側と考えるのではなく、認知症の人が認知症とともによりよく生きていくことができるような環境整備が必要。



認知症の人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域の良い環境で自分らしく暮らし続ける事が出来る社会の実現を目指す。

- ・厚生労働省が関係府省庁（内閣官房、内閣府、警察庁、金融庁、消費者庁、総務省、法務省、文部科学省、農林水産省、経済産業省、国土交通省）と共同して策定
- ・策定に当たり認知症の人やその家族など様々な関係者から幅広く意見を聴取

七つの柱

- ①認知症への理解を深めるための普及・啓発の推進
- ②認知症の様態に応じた適時・適切な医療・介護等の提供
- ③若年性認知症施策の強化
- ④認知症の人の介護者への支援
- ⑤認知症の人を含む高齢者にやさしい地域づくりの推進
- ⑥認知症の予防法、診断法、治療法、リハビリテーションモデル、介護モデル等の研究開発及びその成果の普及の推進
- ⑦認知症の人やその家族の視点の重視

若年性認知症施策の強化

- 若年性認知症の人が発症初期の段階から適切な支援を受けられるよう、医療機関や市町村窓口等を通じて、若年性認知症と診断された人やその家族に、若年性認知症支援のハンドブックを配布。

→ [特定医療法人アガペ会ホームページからダウンロード可能](#)

- 都道府県ごとに若年性認知症の人やその家族からの相談の窓口を設置し関係者のネットワークの調整役を担うもの（コーディネーター）を配置するほか、以下の取組みを実施。→沖縄県はH29年1名配置、H30年2名配置へ

- ①若年性認知症の人や意見交換会の開催等を通じた若年性認知症の人のニーズ把握
- ②若年性認知症の人やその家族が交流できる居場所づくり
- ③事業主に対する若年性認知症の人の就労について理解を図るための周知
- ④企業における就業上の措置等の適切な実施など治療年ごとの両立支援の取組みの促進
- ⑤若年性認知症の人がハローワークによる支援等が利用可能であることの周知、若年性認知症の特性に配慮した就労・社会参加支援等を推進する。

【厚生労働省】

若年性認知症の人への支援

「認知症総合戦略推進事業」若年性認知症施策総合推進事業（実施主体：都道府県・指定都市）

■相談

- ①本人や家族との悩み共有
- ②受診同行を含む受診勧奨
- ③利用出来る制度、サービスの紹介や手続き支援
- ④本人、家族が交流できる居場所づくり

■支援ネットワークづくり

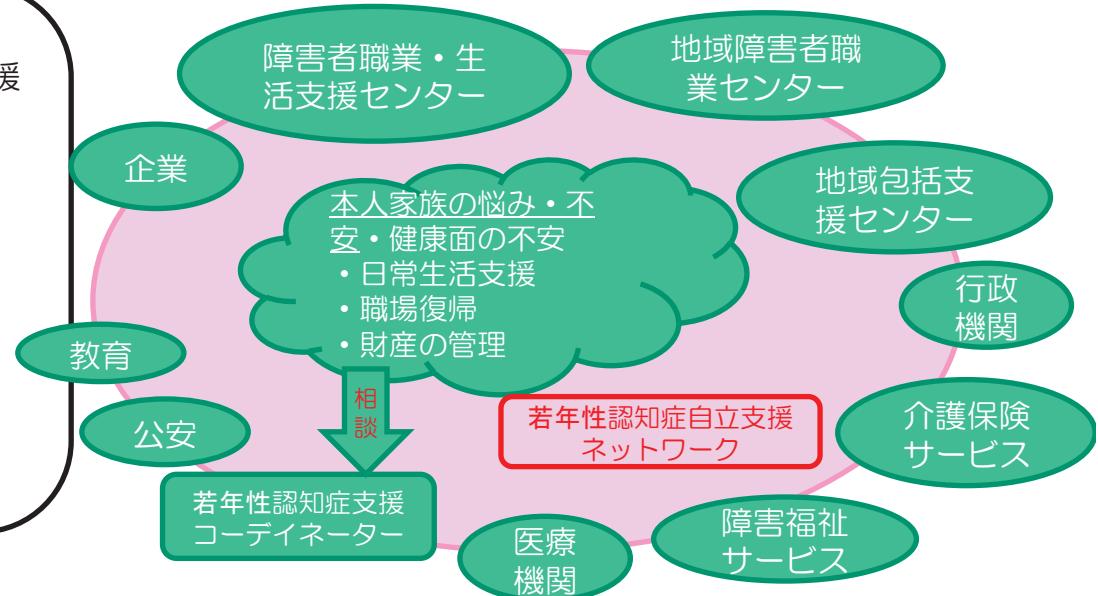
- ・ワンストップの相談窓口の役割を果たすため、医療・介護・福祉・労働等の関係者による支援体制（ネットワーク）の構築
- ・ネットワークにおける情報共有、ケース会議の開催、普及啓発等

■普及・啓発

- ・支援者・関係者への研修会の開催等
- ・企業や福祉施設等の理解を促進するためのパンフレット作成など

これらの支援を一体的に行うために若年性認知症支援コーディネーターを各都道府県に配置

- ## ■若年性認知症の特性に配慮した就労・社会参加支援
- ①若年性認知症の人や意見交換会の開催等を通じた若年性認知症の人のニーズ把握
 - ②若年性認知症の人やその家族が交流できる居場所づくり
 - ③事業主に対する若年性認知症の人の就労について理解を図るための周知
 - ④企業における就業上の措置等の適切な実施など治療年ごとの両立支援の取組みの促進
 - ⑤若年性認知症の人がハローワークによる支援等が利用可能であることの周知



若年性認知症支援コーディネーター

- ◆ 若年性認知症の人のニーズにあった関係機関や
サービス担当者との調整役
- ◆ 本人が自分らしい生活を継続できるよう
本人の生活に応じた総合的なコーディネートを行う
- ◆ 各都道府県に 1 名以上配置
- ◆ 認知症が疑われる時期から相談可能



若年性認知症の人の
支援に特化

相談窓口
制度等の
情報提供

連携体制
の構築

認知症の
知識の
普及・啓発



Obu Center for Dementia Care Research and Practices

沖縄県若年性認知症支援推進事業

【事業の目的】

孤立しやすい若年性認知症の本人と介護家族がお互いに支え合うことの出来るネットワークを構築するとともに、研修会開催、ハンドブックやリーフレットを活用することで若年性認知症に関する理解の促進・普及啓発を行い、若年性認知症施策を推進することを目的とする。

事業の柱

- 相談対応、支援ネットワークづくり
- 本人交流会（若年性カフェ）開催
- 支援者研修会開催、一般向け講演会開催

現在

沖縄県若年性認知症支援推進事業

- ・相談対応
(ネットワークづくり)
➡ 課題をネットワーク会議へ
- ・本人交流会
(若年性カフェ)
- ・支援者研修
一般向け講演会

※ 毎年、若年性認知症支援推進事業の
ポスター・チラシを作成して、医療・介護・
福祉・行政等の関係機関へ配布
(2020年度→434件発送済み)

令和2年度 沖縄県若年性認知症支援推進事業

この事業は、孤立しやすい若年性認知症の本人と介護家族がお互いに支え合うことのできるネットワークを構築するとともに、研修開催、ハンドブックやリーフレットを活用することで若年性認知症に関する理解の促進、普及啓発を行い、若年性認知症施策を推進することを目的としています。

事業内容	対象	詳細	備考
相談対応	本人、家族、若年性認知症の人を利用している事業者、若年性認知症の人を対象とする企業等	<p>【方法】 電話相談：電話番号 098-943-4085 担当：若年性認知症支援コーディネーター メール相談：eodjyak@gmail.com 来所相談・訪問相談【予約制】</p>	<p>■対応時間：平日 9時～17時 土日祝祭日、年末年始（12/29～1/3）お休み</p>
本人交流会 (若年性認知症カフェ)	本人とその家族	<p>【日程】令和2年 4月 18日(土) 7回目 令和2年 10月 17日(土) 1回目 令和2年 5月 16日(土) 8回目 令和2年 11月 21日(土) 3回目 令和2年 6月 20日(土) 9回目 令和2年 12月 18日(土) 4回目 令和2年 7月 18日(土) 10回目 令和3年 1月 16日(土) 5回目 令和2年 8月 16日(土) 11回目 令和3年 2月 20日(土) 6回目 令和2年 9月 13日(土) 12回目 令和3年 3月 20日(土)</p> <p>【時間】11時～14時、15時～16時(受付開始 20分前～) 【各自2組に分けて実施します】</p>	<p>■定員：各6名(1)6名、(2)6名 ■場所：新オレンジサポート室 ■締め切り：入会料割引があるため 3日前までにお申し込みください。 ※参加費無料 ※添付・消費の補助はございません。</p>
支援者研修会	介護家族、職場の方、行政職員、医療・介護・福祉・就労関係者など	<p>■八重山地区 ・日時：令和2年7月9日(木) 07時～11時 12時～14時(受付開始 30分前～) ・会場：石垣市健康福祉センター(相談室)</p> <p>■北部地区 ・日時：令和2年7月17日(金) 07時～14時 15時～16時(受付開始 30分前～) ・会場：名護中央公民館(第1・2研修室)</p> <p>■南部地区 ・日時：令和2年8月17日(火) 07時～15時 16時～17時(受付開始 30分前～) ・会場：沖縄県社会福祉センター うるみん(相談室A・B)</p> <p>■中部地区 ・日時：令和2年9月15日(水) 07時～15時 16時～17時(受付開始 30分前～) ・会場：うるま市健康福祉センター うるみん(相談室A・B)</p> <p>■宮古地区 ・日時：令和2年12月11日(金) 07時～15時 16時～17時(受付開始 20分前～) ・会場：旧宮古島市中央公民館(下里 319) 1Fホール</p>	<p>■内容：事例報告会 「認知症になんでも働ける」</p> <p>■定員：各20名 ①20名 ②20名 【各地区2組に分けて実施します】 ■参加費：無料 ■締切：各地区開催日の1週間前</p>
相談会	本人、家族、職場の方、行政職員、医療・介護・福祉・就労関係者など	<p>■宮古島市 ・日時：令和2年12月12日(土) 9時～11時 ・場所：うじやすみゃあす・ん診療所(ディケア室) おれんじカフェ・うみゆ</p>	<p>■無料 ■申込み開始：11月2日(月) ■締切：12月4日(金)</p>
一般向け講演会	すべての方	<p>■テーマ：「認知症になんでも働ける～自分らしく働く～」 ・日時：令和2年10月3日(土) 10時～11時(受付9時半～) ・会場：奥武山公園(武道館2F研修室)</p>	<p>■定員：20名 ■参加費：無料 ■申込み開始：9月1日(火) ■締切：9月25日(金)</p>

■最新コロナウィルス感染拡大予防対策について
・「介護業主導型ガイドライン」や開催会場のガイドラインに沿って開催致します。
・マスク着用や健康状態の検査などの、感染予防対策の徹底にご協力をお願い致します。
・今後の新型コロナウイルス感染拡大により、研修会の規模縮小や中止、中止となる場合がございます。
何卒ご理解よろしくお願い致します。

■申込み方法：裏面の申込用紙に必要事項をご記入の上、FAXにてお申し込み下さい。(FAXがない方はお電話にてお問い合わせください)
■支援者研修会、一般向け講演会に参加される場合は、申込後「健康状態申告書」をFAXまたは郵送致します。事前にご記入いただき、当日、提出して頂戴お願い致します。
■他施設に赴きたいなどの場合はござります。その連絡は電話またはFAX、特定医療法人アグベイ、特定医療法人アグベイ、新オレンジサポート室

TEL (098) 943-4085 FAX (098) 943-4702

アグベイ、沖縄東部保健福祉センター(本店)
(及川沖縄地場病院保健福祉センター) ふくしま内

事業内容の経過 1 全体像

	主な事業内容	受託先	事業利用者 総数
平成25年度	相談対応、本人交流会・研修会・講演会の開催 <u>*実態把握調査（一次・二次調査→509人把握）</u>	公益社団法人認知症の人と 家族の会沖縄県支部	
平成26年度	相談対応、本人交流会・研修会開催、 ★本人家族のためのハンドブック作成	公益社団法人認知症の人と 家族の会沖縄県支部	
平成27年度	相談対応、本人交流会・研修会・講演会の開催、 ★企業向けリーフレット作成	公益社団法人認知症の人と 家族の会沖縄県支部	713名
平成28年度	相談対応、本人交流会・研修・講演会の開催	特定医療法人 アガペ会	1,053名
平成29年度	(コーディネーター配置) 相談対応、ネットワーク会議・本人交流会・支援者 研修会・一般講演会の開催	特定医療法人 アガペ会	1,167名
平成30年度	(コーディネーター配置) 相談対応、ネットワーク会議・本人交流会・支援者 研修会・一般講演会の開催 ★本人家族のためのハンドブック（第二版）作成 ★支援者のためのガイドブック作成	特定医療法人 アガペ会	2,201名
令和元年度	(コーディネーター配置) 相談対応、ネットワーク会議・本人交流会・支援者 研修会・一般講演会の開催	特定医療法人 アガペ会	2,222名
令和2年度	(コーディネーター配置) 相談対応、ネットワーク会議・本人交流会・支援者 研修会・一般講演会（相談会）の開催	特定医療法人 アガペ会	2,068名 (1月末 現在)

事業内容の経過2 相談対応

	相談 延べ件数	コーディネーター 配置
平成25年度		なし
平成26年度		なし
平成27年度	294件	なし
平成28年度	232件	なし
平成29年度	638件	1名
平成30年度	1,652件	2名
令和元年度	1,624件	2名
令和2年度 (1月末まで)	1,938件	2名

事業内容の経過3 本人交流会

	内容	利用者数
平成25年度	大規模3回開催（本島のみ） ※離島からの利用者について旅費補助あり	
平成26年度	大規模3回開催（本島のみ） ※離島からの利用者について旅費補助あり	
平成27年度	・大規模3回開催（本島のみ）・小規模13回 ※離島からの利用者について旅費補助あり	313名
平成28年度	大規模4回開催（本島のみ） ※離島からの利用者について旅費補助あり	246名
平成29年度	大規模3回開催（台風で1回中止）	104名
平成30年度	若年性認知症カフェ（本島12回） ※相談会 5回開催（宮古島市・石垣市）	135名 25名
令和元年度	若年性認知症カフェ（本島12回予定→9月台風、3月コロナ ウィルス感染予防対策 2回中止） ※相談会 回開催（宮古島市・石垣市）	96名 —
令和2年度	若年性認知症カフェ（本島12回予定→4、5、8月中止） ※相談会 開催予定（宮古島市）→12月12日	63名

事業内容の経過4 支援者向け研修会

	内容	利用数
平成25年度	大規模2回（宮古島市・石垣市）	
平成26年度		
平成27年度	大規模開催3回（本島・宮古島市・石垣市）、 小規模開催1回	346名
平成28年度	本島大規模1回、認知症カフェ内で行う小規模開催5回	219名
平成29年度	大規模開催3回（本島2回・石垣市）	195名
平成30年度	大規模開催2回（本島・宮古島市） 小規模開催6回（本島で事例検討会） ※相談会5回開催（宮古島市・石垣市）	108名 7名 21名
令和元年度	大規模開催6回（北部・中部・南部・宮古島市・石垣市）	382名
令和2年度	大規模開催6回（北部・中部・南部・宮古島市・石垣市） → コロナウィルスの影響で北部・石垣市以外、延期中	53名

事業内容の経過5 一般向け講演会

	内容	利用数
平成25年度	県外当事者1名による当事者が語る会 (会場：那覇市)	
平成27年度	本島認知症カフェ内で一般向け勉強会を3回シリーズで開催	54名
平成28年度	・県外当事者1組、県内当事者1組：当事者が語る会（会場：嘉手納町） ・県内当事者1名：当事者が語る会（会場：宮古島市・石垣市）	356名
平成29年度	県内当事者4組：当事者が語る会（会場：浦添市）	83名
平成30年度	当事者の体験（VR）を学ぶ会（会場：那覇市、共催：沖縄県社会福祉協議会）	171名
令和元年度	当事者の体験（VR）を学ぶ会（会場：那覇市）	97名
令和2年度	就労支援について・事例発表 → コロナウィルスの影響で相談会へ内容変更	1名

認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）

沖縄県若年性認知症支援ネットワーク会議について

平成29年度 平成30年2月8日開催

- ・平成29年4月3日に配置された沖縄県若年性認知症支援コーディネーターより配置後の相談内容について発表

平成30年度 平成30年10月31日

- ・若年性認知症支援ガイドブック作成に向けたワーキング会議を開催。

令和元年度 令和1年10月24日

- ・県内のケースで共通した課題「移動支援」「子どもの支援」「財産管理」について情報共有頂き、意見を頂く。

令和2年度 令和2年11月25日

- ・県内の課題「早期受診・早期支援」「就労支援事業所・相談支援員との連携」について情報共有頂き、意見を頂く。

相談対応

沖縄県若年性認知症相談窓口への相談件数
(若年性認知症支援コーディネーター配置後の状況)



	相談 のべ件数	対象者	支援 開始
平成29年度	638件	75名	40名
平成30年度	1,652件	72名	38名
平成31年度 (令和1年度)	1,624件	59名	17名
令和2年度 (10ヶ月・1月末まで)	1,938件	53名	19名
合計	5,852件	259名	114名

相談方法

	電話	メール	来所	訪問
平成29年度	399件	29件	44件	166件
平成30年度	983件	119件	78件	472件
平成31年度 (令和1年)	790件	423件	61件	350件
令和2年度 (10ヶ月・1月末)	831件	849件	66件	192件
合計	3,003件	1,420件	249件	1,180件

相談内容	H29年	H30年	H31年(令和1年)	令和2年
利用出来るサービスがない	158件	511件	289件	328件
医療との連携について	95件	237件	273件	352件
受診について相談したい	73件	277件	189件	183件
<u>仕事のこと</u>	<u>61件</u>	<u>101件</u>	<u>215件</u>	<u>199件</u>
経済的なこと	52件	164件	197件	251件
介護に関すること	38件	193件	278件	430件
こどものこと	16件	9件	23件	14件
権利擁護について	8件	29件	3件	22件
家庭的なこと	7件	36件	37件	49件
告知について	5件	4件	2件	6件
ひきこもり	5件	3件	0件	0件
予防に関すること	0件	3件	5件	0件
親のこと	1件	0件	12件	1件
その他(集い教えて等)	119件	85件	101件	103件

若年性認知症とは？

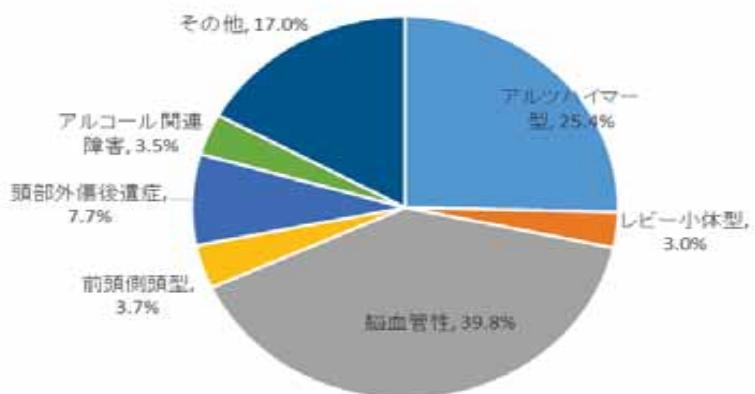
「65歳未満で発症した場合の認知症のこと」

若年性認知症数の推計

平成18年～平成20年度 調査（平成21年3月）

- ・全国における若年性認知症者数は3.78万人と推計
- ・18～64歳人口における人口10万人当たり若年性認知症者数は47.6人。

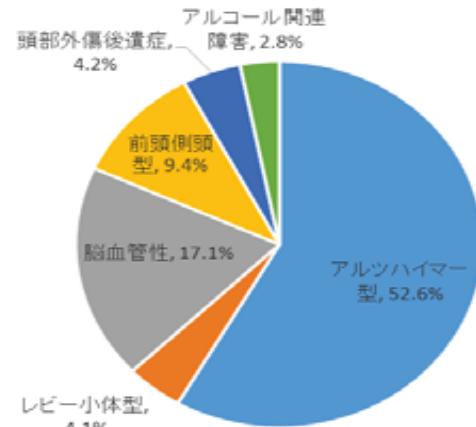
若年性認知症の原因疾患の割合



平成29年～平成31年度 調査（令和2年7月）

- ・全国における若年性認知症者数は3.57万人と推計
- ・18～64歳人口における人口10万人当たり若年性認知症者数は50.9人。

若年性認知症の原因疾患の割合



2020.7.27

支援開始 108名の状況

疾患名	人数
軽度認知機能障害(MCI)	9 名
アルツハイマー型認知症	58 名
前頭側頭型認知症	15 名
混合型認知症 AD・DLB: 2名、 VD・DLB: 1名、 FTD・DLB: 1名、 VD・AD: 1名	5 名
指定難病	5 名
血管性認知症	7 名
レビー小体型認知症	3 名
若年性認知症(種類鑑別困難)	1 名
その他 早老症1名、精神疾患1名、無呼吸症候群1名、 診断なし(高次脳・アルコール含む)4名、現在精査中4名	11 名

支援開始した方

市	H29	H30	R1	R2	計
那覇市	9	4	3	2	18
うるま市	6	1	3		10
宜野湾市	3	6	1	3	13
浦添市	4	4	1	2	11
宮古島市	2	5	1		8
豊見城市	4	2	1		7
石垣市	1	2			3
沖縄市	1	3	1	3	8
名護市		2	1	1	4
糸満市	1		1	3	5
南城市	1				1

24市町村 支援介入

114名の居住地

町村	H29	H30	R1	R2	計
恩納村	3				3
読谷村	1	1		1	3
西原町	1	2			3
北中城村	1	1			2
嘉手納町	1	1		1	3
与那原町		1	1	1	3
中城村		1	1	1	3
南風原町	1				1
国頭村		1			1
北谷町		1			1
金武町			1		1
宜野座村			1		1
八重瀬町				1	1

支援開始114名（男性60名・女性54名）の

年代と人数		平均年齢59歳	ライフスタイル		
年代	人数	独身男性	独身女性	養育者	
20代	1名	0名	1名	0名	
30代	2名	0名	0名	0名	
40代	10名	4名	2名	4名	
50代	38名	8名	2名	5名	
60～64歳	50名	6名	2名	3名	
65歳以上	13名	0名	0名	0名	

養育者8名の子ども世代別人数（子ども総数17名）

未就学	小学生	中学生	高校生	大学生	18歳 (進学あきらめた)
2名	2名	3名	5名	3名	1名

支援開始 114名の状況

年代と人数		独居	主介護者の状況			
年代	人数	人数	家族は高齢	療養中	ダブル介護	家族的に支援が必要
20代	1名		1名			
30代	2名		1名		1名	
40代	10名	2名	3名			
50代	38名	8名	4名	1名	5名	4名
60~64歳	50名	9名	5名	1名	10名	8名
65歳以上	13名	2名	1名	1名	2名	2名

- ・障害年金手続き支援 34件(H30年以降)
- ・受診同行・行政窓口同行は除く

手続きに支援が必要であった

支援開始 114 名の就労状況

就労状況	H29	H30	H31 (R1)	R2	合計
在職	8名	6名	4名	5名	23名
休職	5名	3名	1名	2名	11名
すでに退職	15名	16名	8名	8名	47名
元々無職	12名	13名	2名	4名	31名

認知症とは？

認知症は、脳の神経細胞が、十分に働かなくなるためにおこる病気

1. 原因は病気による脳の変化
2. 記憶などの知的な働きが低下していく
3. 日常生活や、仕事などの社会生活がうまく送れない
4. 意識がはっきりしている



認知症になるとみられる症状

- ・**新しい記憶（最近の出来事）から薄っていく**
初期には数日前のことが思い出せない
記憶のシステム（記録→保持→再生）のどこかに
トラブルがおきる
- ・**時間や場所がわからなくなる**
「今日は何日？」と何回も聞いてくる
- ・**判断力、理解力、思考力が低下する**
それまで普通にできていた料理がうまく作れなくなる

認知症と診断されたからといって、
直ぐに何も出来なくなる訳ではありません。



認知症の進み方

- 認知症の進み方は、人によってさまざま

→ 影響する要因は

1) 病気の原因

2) 本人を取り巻く環境の違い

→ 治療を始める時期、ケアの方法、
周囲の人との関係など

周りの方の認知症に対する正しい理解があること、症状に対して良い対応が出来る事、本人を取り巻く環境が穏やかで整っていること

→ 認知症の症状の進行は緩やかに



Obu Center for Dementia Care Research and Practices

認知症と間違われやすい状態

1. 加齢によるもの忘れ

2. うつ病

3. せん妄

- 脳全体の働きが一時的に悪くなる
(脳貧血、血圧低下、脱水、薬物など)
- 数時間から数日で消える興奮・混乱状態
(人物を間違える、妄想、幻覚など)



認知症や認知症に似た症状を示す疾患

1. アルツハイマー型認知症（アルツハイマー病）

2. 血管性認知症

3. レビー小体型認知症

4. 前頭側頭型認知症

5. その他：正常圧水頭症、脳腫瘍、
甲状腺機能低下症など

早期受診・早期診断が大事な訳
治療すればなおる病気もあります。

↓
体調不良の原因を早めに検査し、
治療が有効な期間に、
きちんとケアすることが重要です!!



認知症高齢者との違い

- ・発症年齢が若い

※家族が気がつきやすい高齢者と違い、職場の人が変化に気がつきやすい

- ・男性が多い

- ・初発症状が認知症特有のものでなく、診断しにくい

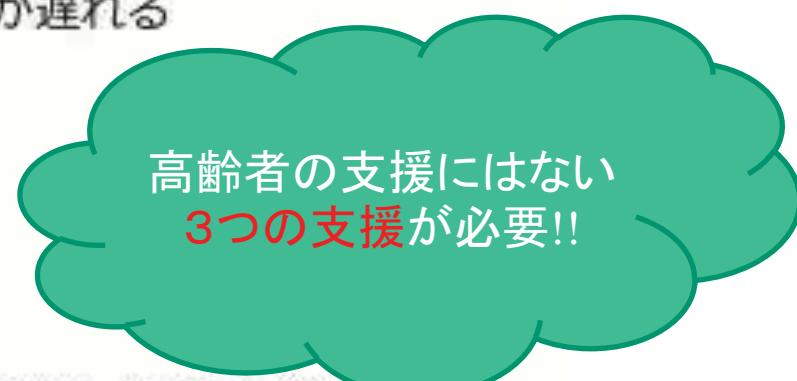
- ・異常であることには気がつくが、受診が遅れる

- ・経済的な問題が大きい

- ・主介護者が配偶者に集中する

- ・時に複数介護となる

- ・家庭内の課題が多い（就労、子供の教育・結婚など）



高齢者の支援にはない
3つの支援が必要!!

経済的支援

就労支援

子どもの支援

気づきから受診日まで、 受診日から相談日までの期間(2019年)

	気づきから受診日まで N=65(不明を除く)	受診日から相談日まで n=282(不明を除く)
半年未満	6件(9. 2%)	66件(23. 4%)
半年～1年	9件(13. 8%)	17件(6. 0%)
～2年	9件(13. 8%)	30件(10. 6%)
～3年	16件(24. 6%)	18件(6. 4%)
3年以上	25件(38. 5%)	151件(53. 5%)

全国若年性認知症支援センター 2019年報告書

医療機関の受診や専門職へのそうだんに時間がかかるケースが多い

※受診が遅れ、支援開始が遅れるとそのまま今後に向けて準備出来ないまま会社を退職。「まだ働きたい」等、利用出来る色々な選択肢が選べないことも…

若年性認知症支援コーディネーターの基本的な支援・役割

(1) 本人・家族・支援者間連携のコーディネート

若年性認知症の場合には、多くの制度による社会資源を活用することによって、生活の再構築がなされます。

生活におわれ、介護で精一杯の日常生活の中で、本人・家族だけでは制度の情報・把握は難しく、その手続きについても休暇を重ねて申請機関へ何度も足を運んだりすることは大きな負担となります。そのため時間が経過しても何も手がつけられず、各社会資源を利用出来ずに、時間だけが経過しているケースも少なくありません。

相談を受けた場合には、利用可能な社会資源を説明するだけではなく、本人・家族に了承を得た上で、各関係機関への情報提供を行い、確実に社会資源が導入される様に支援します。

家族の不安が大きい場合、家族も病気を抱えている場合、独居の場合等には、関係機関への訪問時の付き添いも必要となります。

早期に各関係機関へしっかりと繋げ、早期に社会資源の導入によって、治療療養に安心して望める環境づくりに入れる様に支援を行います。

若年性認知症支援コーディネーターの基本的な支援の流れと役割



●関係機関とは

- ・医療関係者（医師、相談員等）
- ・企業（人事課、上司等）
- ・障害福祉、福祉的事業所等
- ・介護保険事業所（ケアマネ、相談事業所等）

若年性認知症支援 コーディネーター

- ・初会電話対応
- ・面談（説明と主旨把握）
- ・支援計画
- ・連携（関係機関への電話相談・連携依頼）
- ・関係機関への繋ぎ
- ・再評価
- ・アフターフォロー

※ 終了目安は介護保険サービスの安定した利用であるが、介護保険に限らず、安定したい場所が構築された場合、一旦区切り、後方支援で経過を追う

●関係機関とは

- ・医療
- ・経済保障
(行政・手続き)
- ・就労
- ・障害福祉
サービス
- ・介護保険

- ・連携
- ・協業
- ・情報共有
- ・社会資源の検討

地域の支援（居住区）
主担当：
地域包括支援センター等

【相談・連携を通して目指すべきところ】
混乱期を一人で過ごさず、早期に自身の進路を模索し、自分らしい生活に入る（いきなり介護保険ではなく、サポートを受けながらそのまま在職→段階的に福祉的就労や地域の活動、ボランティア等で社会参加を継続し、後々介護保険への移行というソフトランディングを目指す）
そのためには地域とともに居場所づくりを検討し、サービスの拡充と充実にも働きかけていく
(沖縄県若年性認知症支援推進事業)

若年性認知症の人を支える主な社会制度



医療系支援

- 病気のこと

経済系支援

- お金のこと

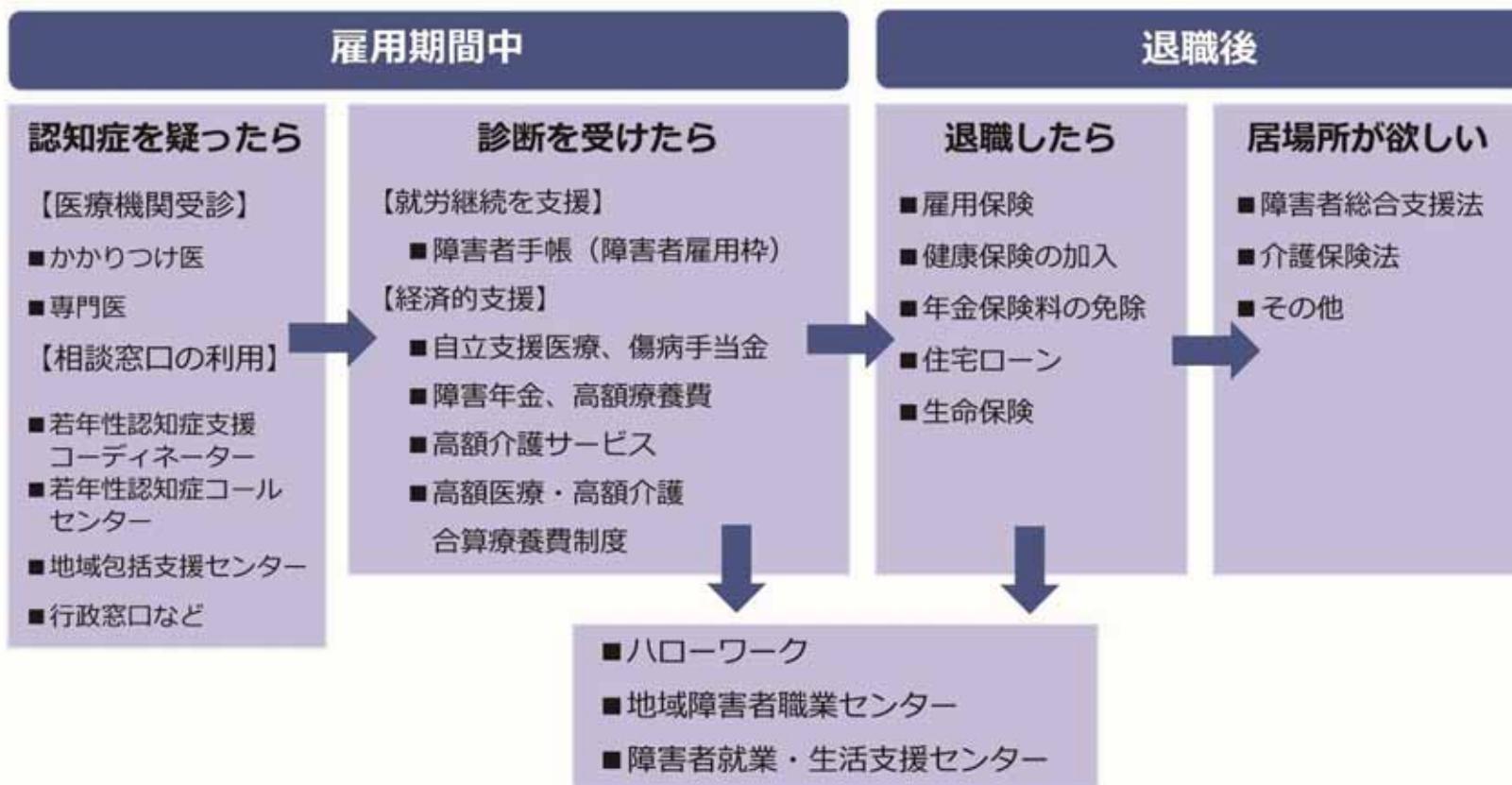
福祉系支援

- 生活のこと



Obu Center for Dementia Care Research and Practices

活用できるサービスや社会制度の流れ



もしや？と思ったときの状況は様々



会社で大事なプロジェクトを抱えていたり…

住宅ローンの返済中
だったり…



子育て中だったり…



親の介護の最中だったり…



家族の大きなイベント
前だったり…



他の病気を抱えていたり…



Obu Center for Dementia Care Research and Practices

若年性認知症と診断されたら

もしあなたが若年性認知症と診断されたら

- ・どのような気持ちになりますか？
- ・どのような心配事がありますか？

もしあなたの**家族**が若年性認知症と診断されたら

- ・どのような気持ちになりますか？
- ・どのような心配事がありますか？



本人の気持ち

認知機能の低下はあるが、感情はさほど衰えない

本人の悩み

できないことが
増えている

周りに迷惑を
かけている…



以前の自分

このギャップを高齢者より強く感じている



現在の自分

何とか保たなければと無理をする



Obu Center for Dementia Care Research and Practices

本人・会社のそれぞれの思い

【若年性認知症の本人】

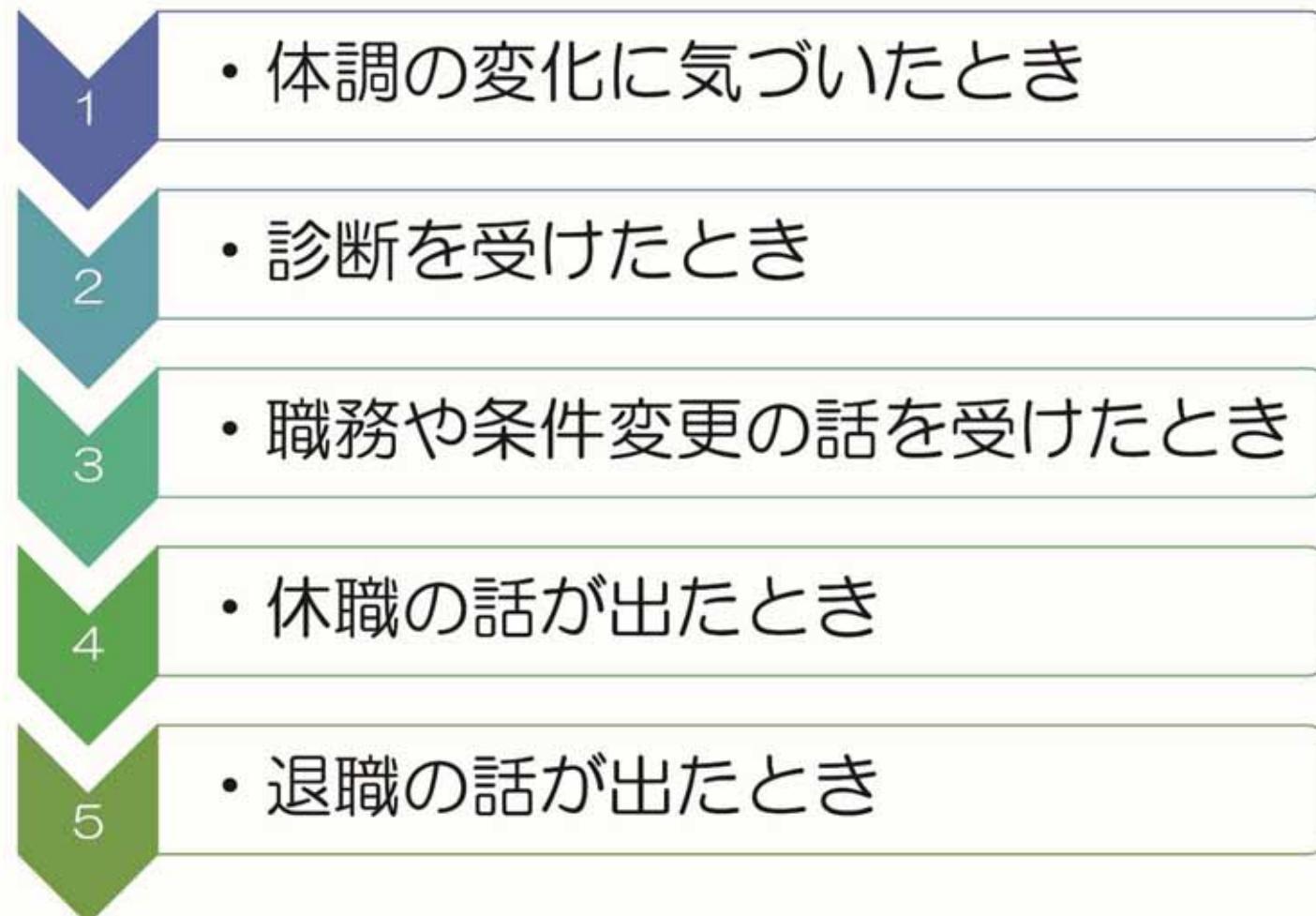
- ・それができないからといって、どうして辞めなければ
ならないの？
- ・仕事を辞めざるを得ないのは辛い
- ・できることがあると嬉しい

【会社側】

- ・今まで貢献してくれた従業員だから何とかしたい
- ・従業員の家族の顔が浮かぶのが辛い
- ・復職しても結局本人は辞めざるを得なくなるので辛い



各状況と思いの変化

- 
- 1 • 体調の変化に気づいたとき
 - 2 • 診断を受けたとき
 - 3 • 職務や条件変更の話を受けたとき
 - 4 • 休職の話が出たとき
 - 5 • 退職の話が出たとき



1. 体調の変化に気づいたとき

まさか認知症だと思わない
表立って話題にしたくない

【本人の思い】

「もの忘れるが気になる」

「この若さでまさか！？」

「周りは気づいているのだろうか？」



【家族の思い】

「何か今までと違う」「うつ病なのか？」

「親戚や知人にも相談しにくい」



Obu Center for Dementia Care Research and Practices

2. 診断を受けたとき

会社や他人に知られたくない
今後の働き方などを相談したい

【本人の思い】

「なぜ私がこのような病気にならなければいけないのか」
「仕事を続けられないのでは」
「定年まで働きたい」

上司に
「遠慮なく相談してくれ」といわれ、安心した

【家族の思い】

「ショックのあまり頭が真っ白になり、考えられない」
「今後のこと誰に相談したらよいのだろうか？」



3. 職務や条件変更の話を受けたとき

自分（本人）を抜きに決めないでほしい
認知症の人の就労に詳しい人に間に入ってほしい

【本人の思い】

「状況を分かってほしい」
「まだまだやれる」

周囲の仲間のさりげない
協力に助けられた

「支援してくれる人がいないと不安だ」

【家族の思い】

「大きな失敗をしないか？」

「周りの人は病気を理解しているのだろうか？」



4. 休職の話が出たとき

気持ちの整理がついたら
今後について話し合いたい

【本人の思い】

- 「以前の自分に戻りたい」
- 「いつ復職できるのだろうか？」
- 「サポートがあれば、今でも働ける」

休職中の制度やサービスに
について説明を受けて安心した

【家族の思い】

- 「給料はどうなるのか、生活は大丈夫だろうか」
- 「今後のことについて、色々聞きたい」



Obu Center for Dementia Care Research and Practices

5. 退職の話が出たとき

納得して区切りをつけたい
次の目標を見つけたい

【本人の思い】

「一人で会社を去るのは寂しかった」

「これからどう過ごせばよいのか？」

「今までできなかつたことを始めたい」

【家族の思い】

「少しホッとした」

「経済的なことが心配だ」「毎日、家に居て大丈夫？」

退職前に次の行き先を
決められてよかったです



Obu Center for Dementia Care Research and Practices

まとめ

- ◆本人は、自分の思いを聞いてもらえるか、不安に思っているので、職場内で相談できる人がいると安心できる
- ◆家族は、本人の体調を一番心配している。また、職場の理解が十分に得られるか不安に思っている。

→若年性認知症支援コーディネーターなど
外部の専門職との連携が必要



ソフトランディングの視点

～若年性認知症の人の就労から生きがいづくり～



Obu Center for Dementia Care Research and Practices

若年性認知症の人の声

【できることをしたい】

- ・今の自分の能力を活かした仕事をしたい。仕事は楽しい。
- ・経験や得意なことを活かした仕事がしたい。

【周りのサポートがあれば】

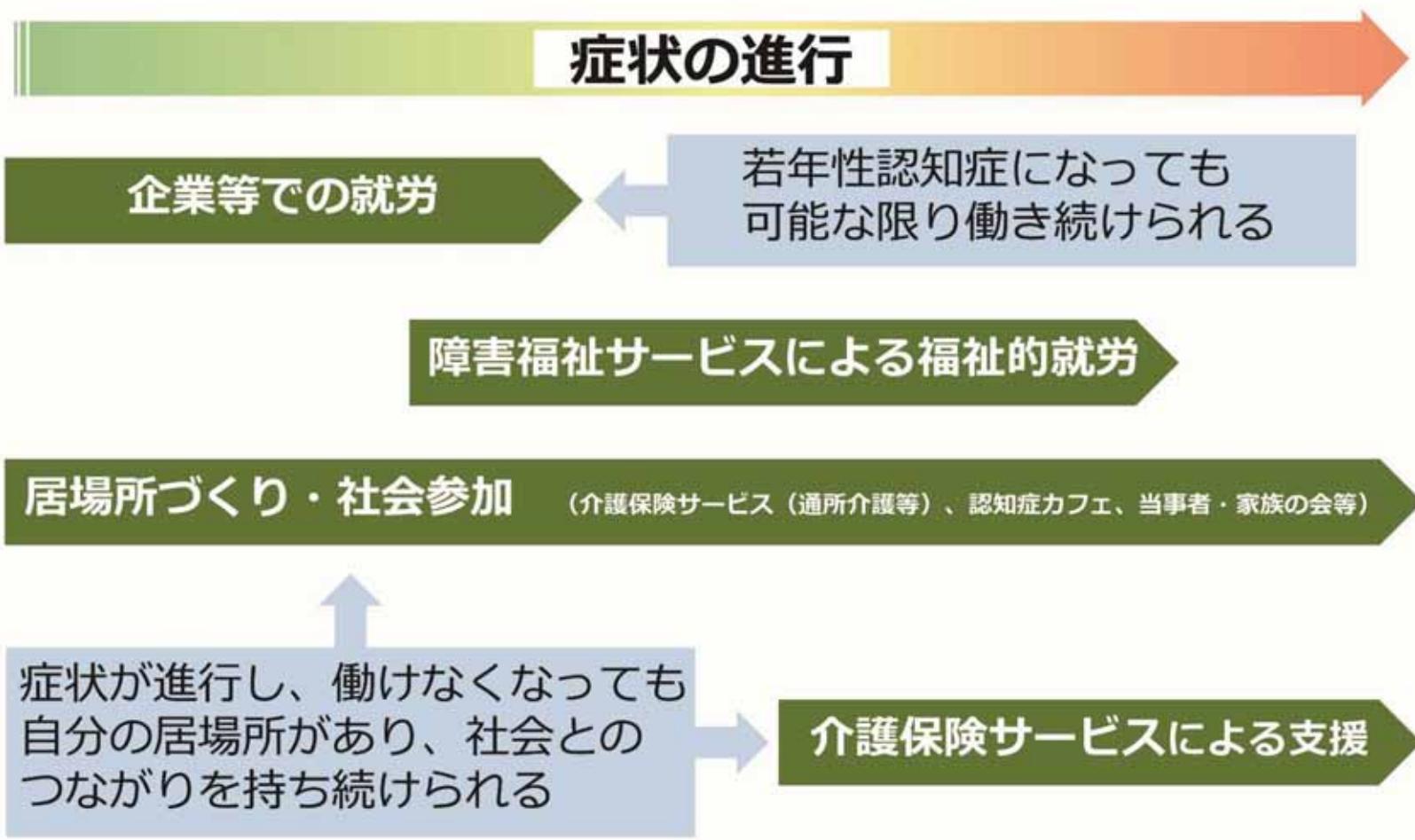
- ・認知症になっても働けるうちは同じ会社で働きたい。

【人や社会の役に立ちたい】

- ・認知症でもやりたいこと、できることがあり
社会の役に立ちたい、つながりを持ち続けたい。



若年性認知症の人の就労・社会参加



Obu Center for Dementia Care Research and Practices

ソフトランディングの視点

症状進行等を考慮して、能力に応じた業務の遂行と
同時に離職への備え、居場所・生きがいづくりなど
切れ目のない支援をすすめる



職場の適切な対応



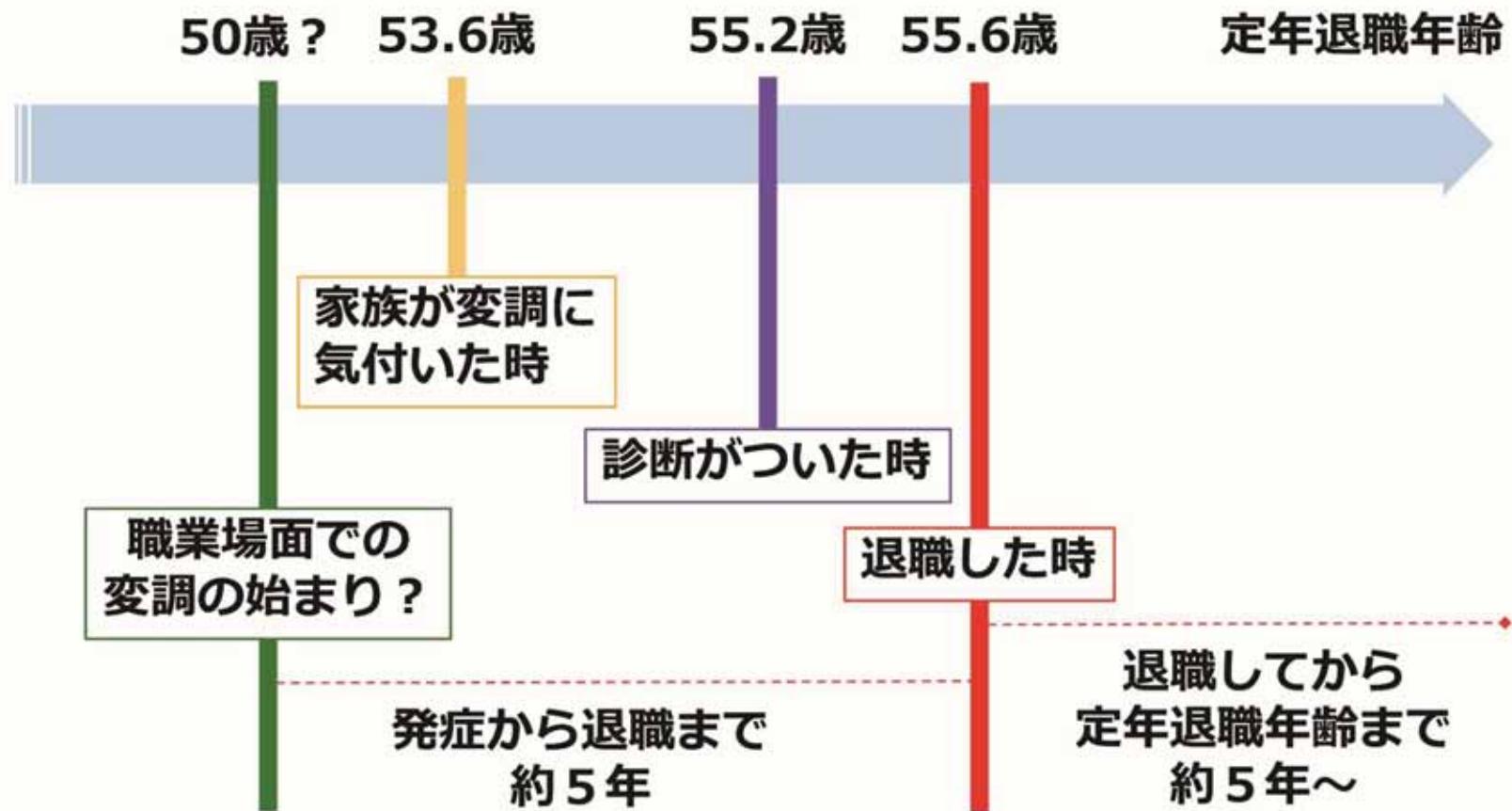
専門的な立場からの助言や支援

(例)若年性認知症支援コーディネーター



Obu Center for Dementia Care Research and Practices

就労中に発症した後の経過



雇用期間中にできること ①

変調への気づき

- ◆ 家族が気付く以前に、本人や職場の同僚等が変調を認識している場合がある
- ◆ 初期段階はうつ状態と混同される場合が多い

【具体例】

もの忘れやミスが増加する、指示内容の理解が低下する
作業効率や速度が低下する、計算や金銭の扱いが難しい等



雇用期間中にできること ②

認知症を疑つたら

- ◆ 認知症は早期診断・早期対応が基本
- ◆ 産業医、健康管理や人事の担当者、かかりつけ医等と連携をとり、必要に応じて受診勧奨を行う
- ◆ 受診時は本人の普段の様子をよく知っている人が付き添うと良い

※受診の時は、いつ頃からミスが増えた、指示を忘れてしまう、難しいこと・出来ること等メモに記載しておくと、受診時医師に伝え忘れる事を防ぐ。



Obu Center for Dementia Care Research and Practices

認知症の診療を行う医師

◆かかりつけ医・家庭医

- ・適切な専門医療機関への紹介、診断後の経過観察や治療

◆認知症専門医

- ・「認知症」を専門とする医師
- ・日本老年精神医学会または日本認知症学会のホームページで検索

◆もの忘れ外来

- ・「認知症」の診療を行う外来

◆認知症疾患医療センター

- ・認知症の診断、治療、日常生活や介護方法への指導
地域連携、啓発等
- ・都道府県・指定都市のホームページで検索

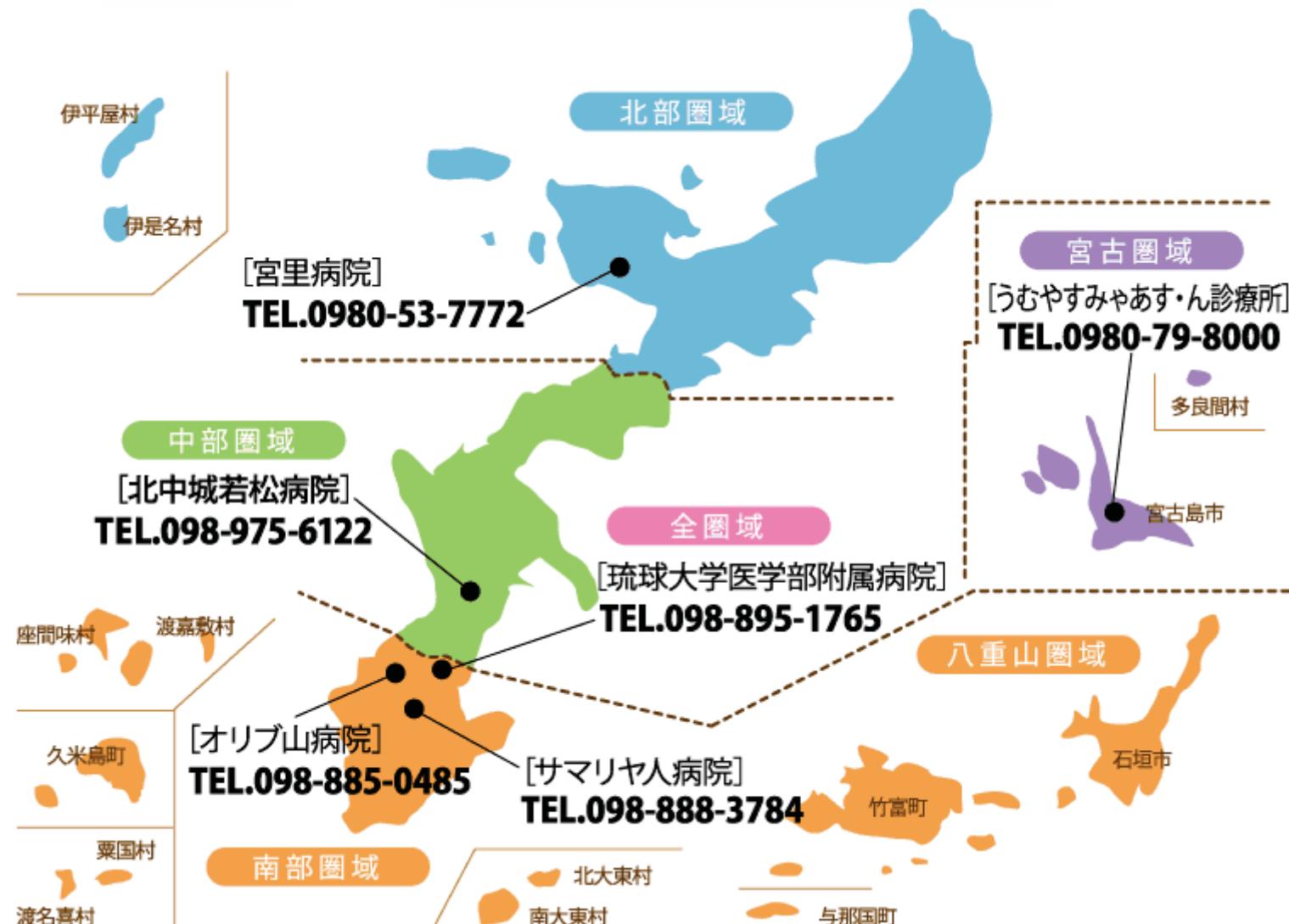
若年性認知症と診断された場合は
内服薬治療だけではなく、地域の利用
出来るサービス等の活用、ご本人の
環境を整える連携が必要です。

ぜひ、ワンストップの相談窓口、
若年性認知症支援コーディネーターにお繋ぎください!!



Obu Center for Dementia Care Research and Practices

沖縄県 認知症疾患医療センター



*認知症疾患医療センターは完全予約制です。まずは電話予約を

雇用期間中にできること ③

診断を受けたら

- ◆ 会社の人事担当者や同僚・上司、産業医、主治医、支援者等と定期的に会議等を行い、情報共有を図る
- ◆ 「認知症」について学ぶ機会の提供
⇒ 認知症サポーター養成講座などを活用
- ◆ 認知症の人とともに働く同僚等に対する配慮
⇒ フォローワー体制の整備



雇用期間中にできること ④

症状の進行

- ◆ 業務内容の見直しや配置転換による就労継続
 - ⇒ 作業能力の見極め
 - ・ 地域障害者職業センターのジョブコーチ派遣の活用
 - ⇒ 可能であれば、職場内でサポート役の配置
- ◆ 雇用や勤務形態の変更による就労継続
 - ⇒ 障害者雇用、勤務の日数や時間の短縮を検討
- ◆ 休職制度の有無を確認し、利用を検討



通勤、社内・外への移動

■ 認知症と診断された場合、自動車運転は法律で禁止

- 電車やバスでの乗り換え方法や道順に迷うことがある
- 自分がいる場所等が分からなくなることがある

本人の工夫（例）

- 乗換や到着駅を記したカードを作成し、持参する
- 利用する車両や時間を一定にする
- 地図や目的地を記した写真等を利用する
- 通勤時間を早める等して混雑を避ける

職場の配慮（例）

- 主治医の意見を聞いたり、家族との話し合いの場を設ける
- 公共交通機関等による通勤手段の検討する
- 家族や同僚等の支援の有無を確認する
- 職場内の通路等に目印を付ける



スケジュール管理に関すること

- 出勤から業務終了までの1日の流れの把握が難しい
- 業務内容や業務量の把握が難しい
- 作業時間の配分が難しい

本人の工夫（例）

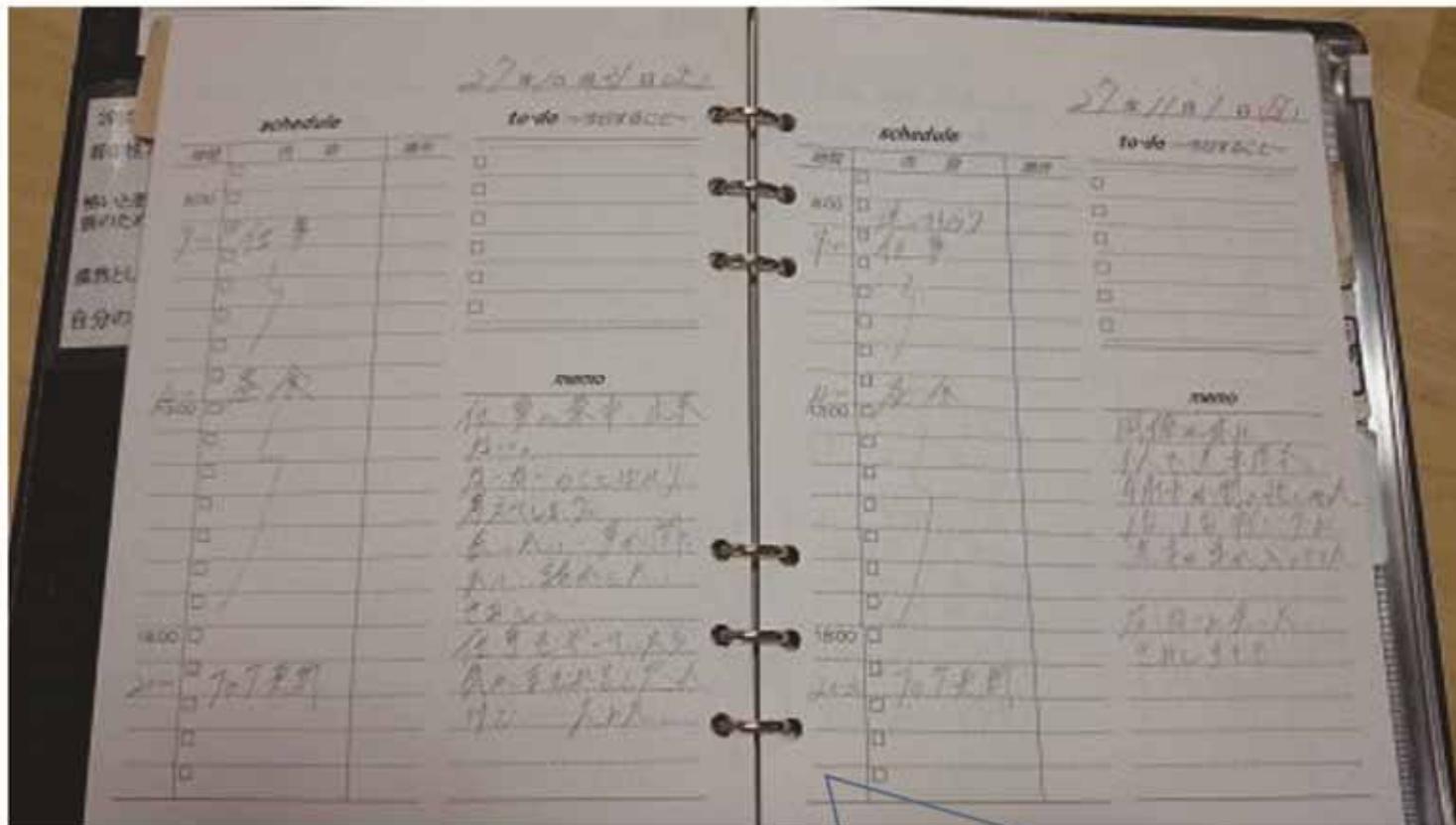
- 1日の業務内容を記載したスケジュール表を作成し、確認する
- 作業内容の手順書やチェック表等を作成し、確認する
- 付箋等でメモを取り、見やすい所に貼る
- 区切りの時間をアラームで知らせるよう設定する

職場の配慮（例）

- 日々の業務内容を見る化し、スケジュール表の作成に協力する
- 手順書やチェック表の作成に協力をする
- 休憩時間等の際、声かける



メモリーノート



病気になってから付け方を覚えました！



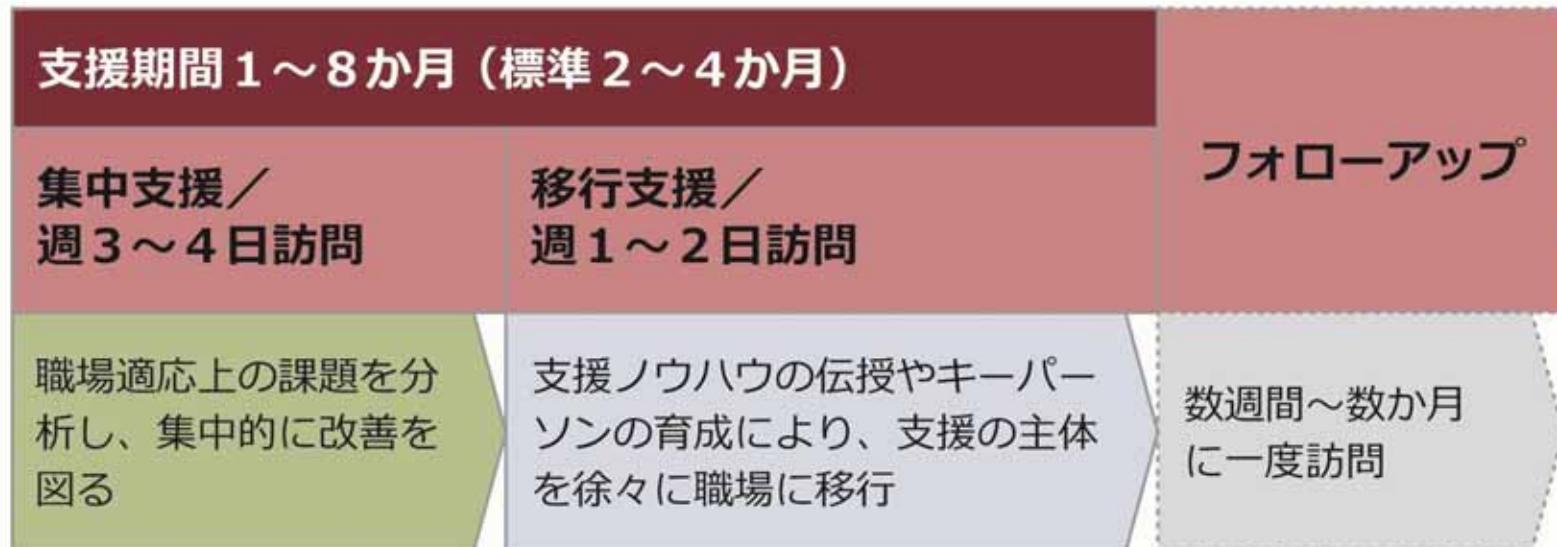
Obu Center for Dementia Care Research and Practices

ジョブコーチ支援とは

ジョブコーチが職場を訪問し、対象者や職場の
状況に合わせて、1対1で直接的・専門的支援を実施



支援期間と主な内容



- ◆ ジョブコーチ支援は、永続的に行うものではない
- ◆ 最終的にはジョブコーチがいなくても安定して働き続け、雇用し続けることができる段階で支援を終了

雇用期間中にできること ⑤

休職に向けて

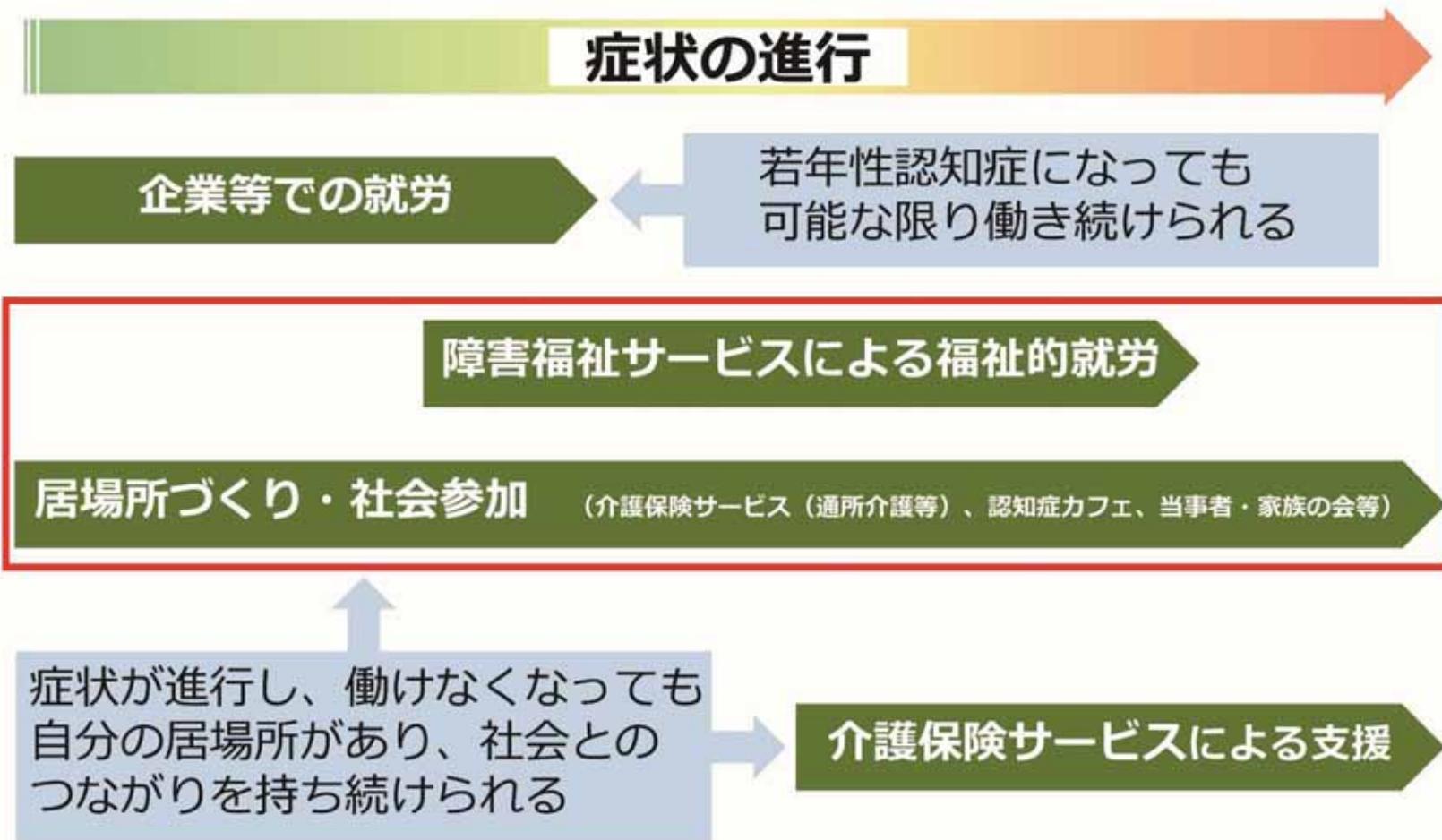
- ◆ 休職制度の説明：傷病手当金の申請は一定の条件があるため要確認

休職中

- ◆ 復職する場合：時期や業務内容などの検討
- ◆ 退職する場合：失業給付などの手続きの準備
- ◆ 退職後の生活を見据えた準備
 - ⇒ 家庭以外の居場所となる場の確保
 - ⇒ 障害福祉サービスや介護保険サービス等の利用の検討



若年性認知症の人の就労・社会参加



福祉的就労：就労継続支援事業所

就労継続支援A型事業所：雇用契約に基づき、一般就労を目指す
就労継続支援B型事業所：雇用契約は結ばず、働く場の提供

- ◆ 本人の能力を見極め、本人のペースに合わせた支援
- ◆ 症状進行により、作業が困難になる可能性
- ◆ 家族、事業所の職員、ケースワーカー、主治医、
若年性認知症支援コーディネーター等の多職種の
連携が重要
- ◆ 場合によっては、介護保険サービスの併用
(40歳以上)



本人・家族の支援

本人・家族の交流会

- ◆ 同じ立場にある本人や家族同士が集まり、体験や悩み等を共有することで、生活していく助けになる

認知症カフェ等の交流会

- ◆ 本人だけでなく、家族や地域の人が気軽に集まれる場



切れ目のないサポート実現に向けて

- ◆ 認知症はだれでもなる可能性があり、進行性の病気のため、いつかは退職の日を迎える
- ◆ 「働くこと=収入を得る」のみではなく、生きがいや自己実現、社会参加の手段でもある
- ◆ 退職後も自分の居場所があり、社会との繋がりを持ち続けられるよう、先を見据えた視点や関わりが重要である
- ◆ 職場内での本人等への関わりが円滑に進むように専門職（若年性認知症支援コーディネーター等）を活用する



若年性認知症支援コーディネーターを中心とした切れ目のない支援

企業等

- * 認知症の気づき…受診をすすめる
- * 診断…処遇・対応を検討する
- * 就労を継続…周囲の理解・配慮を促す

※相談支援専門院と連携し、計画相談…受給者証取得

就労継続支援
事業所

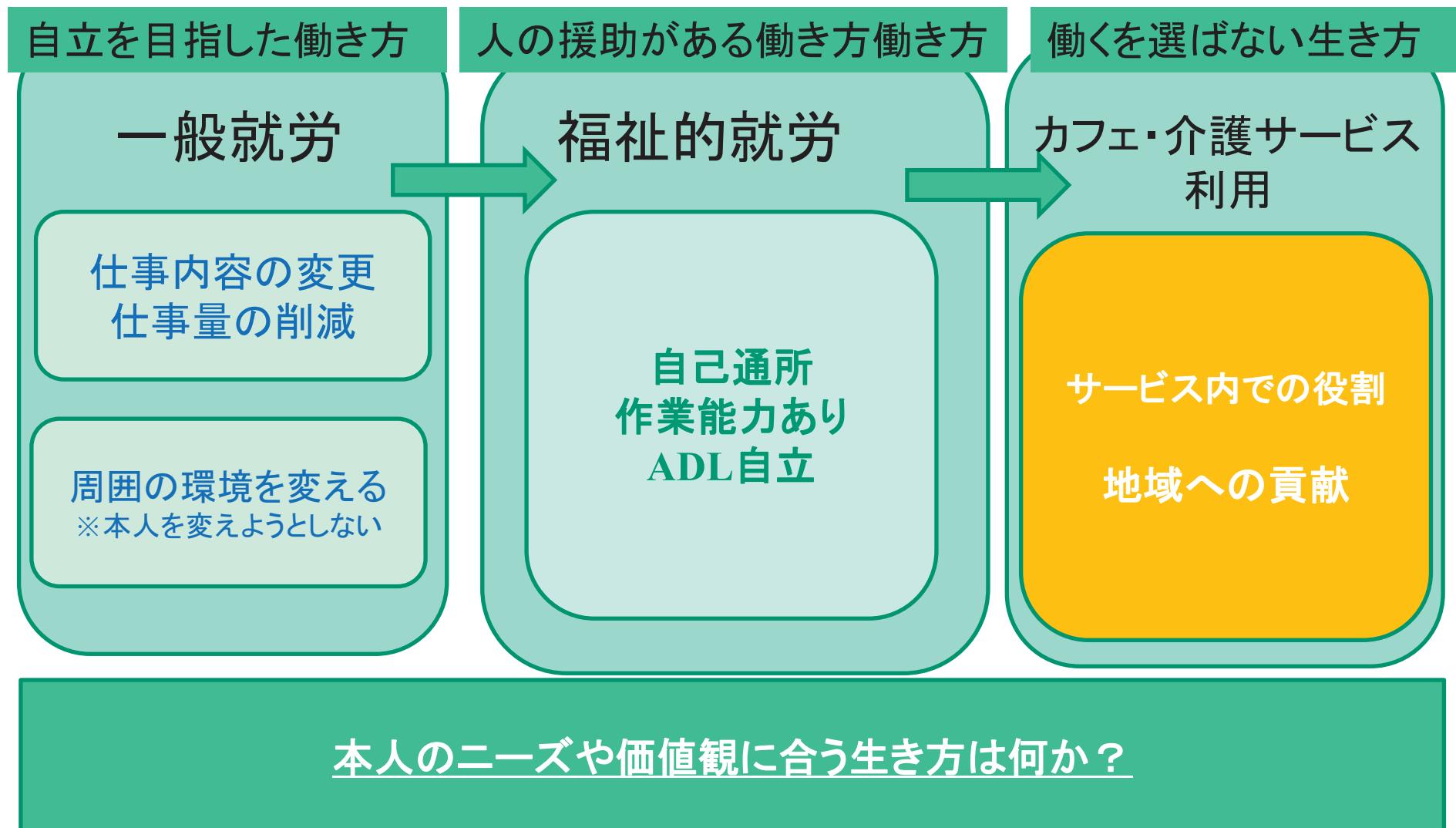
- * 受け入れ…周囲の理解・配慮を促す
- * 新しい環境に慣れる…環境を整備する
- * 症状進行…環境を調整しながら対処も検討する

※相談支援専門院と連携し、計画相談…受給者証取得

介護保険
サービス事業
所

- * 身体機能の低下…介護サービスの利用をすすめる
- * 就労意欲…働く場を紹介する
- * 社会参加…集まる場を紹介する

若年性認知症の人の就労・社会参加の経過



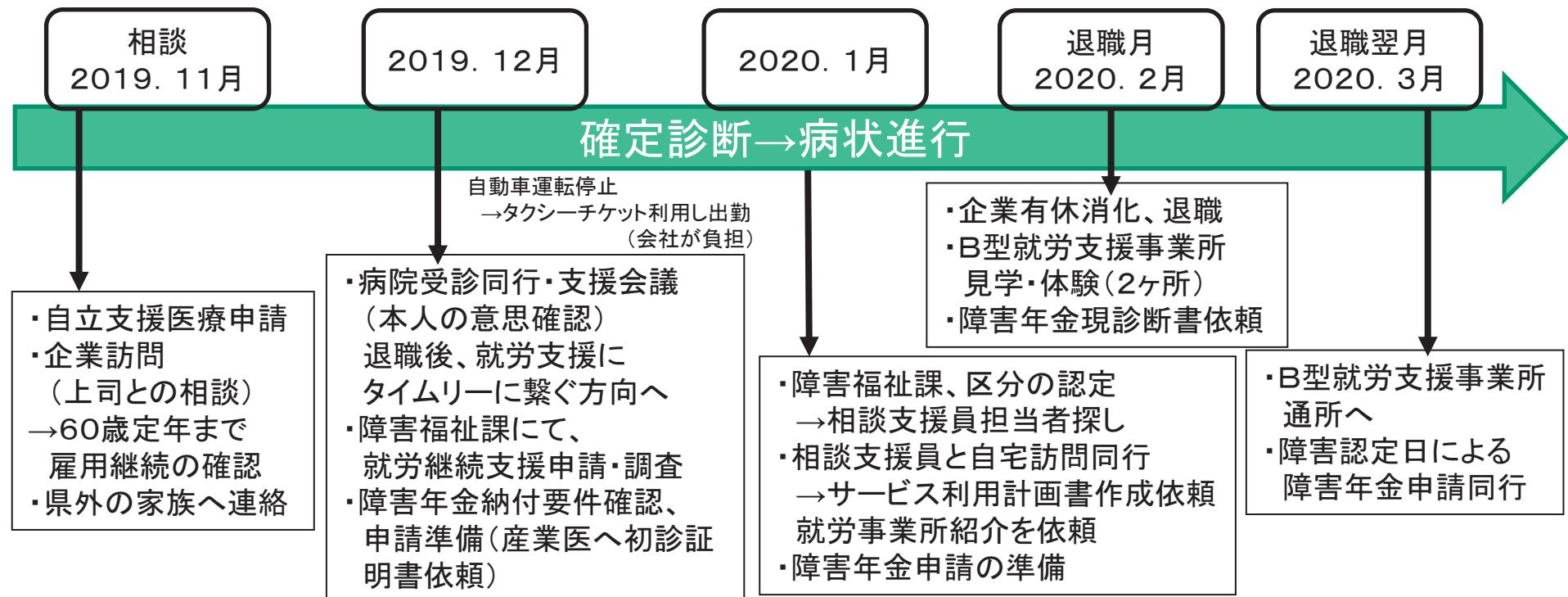
実際の支援

(企業退職・継続的就労に向けて円滑な支援展開が出来た事例)

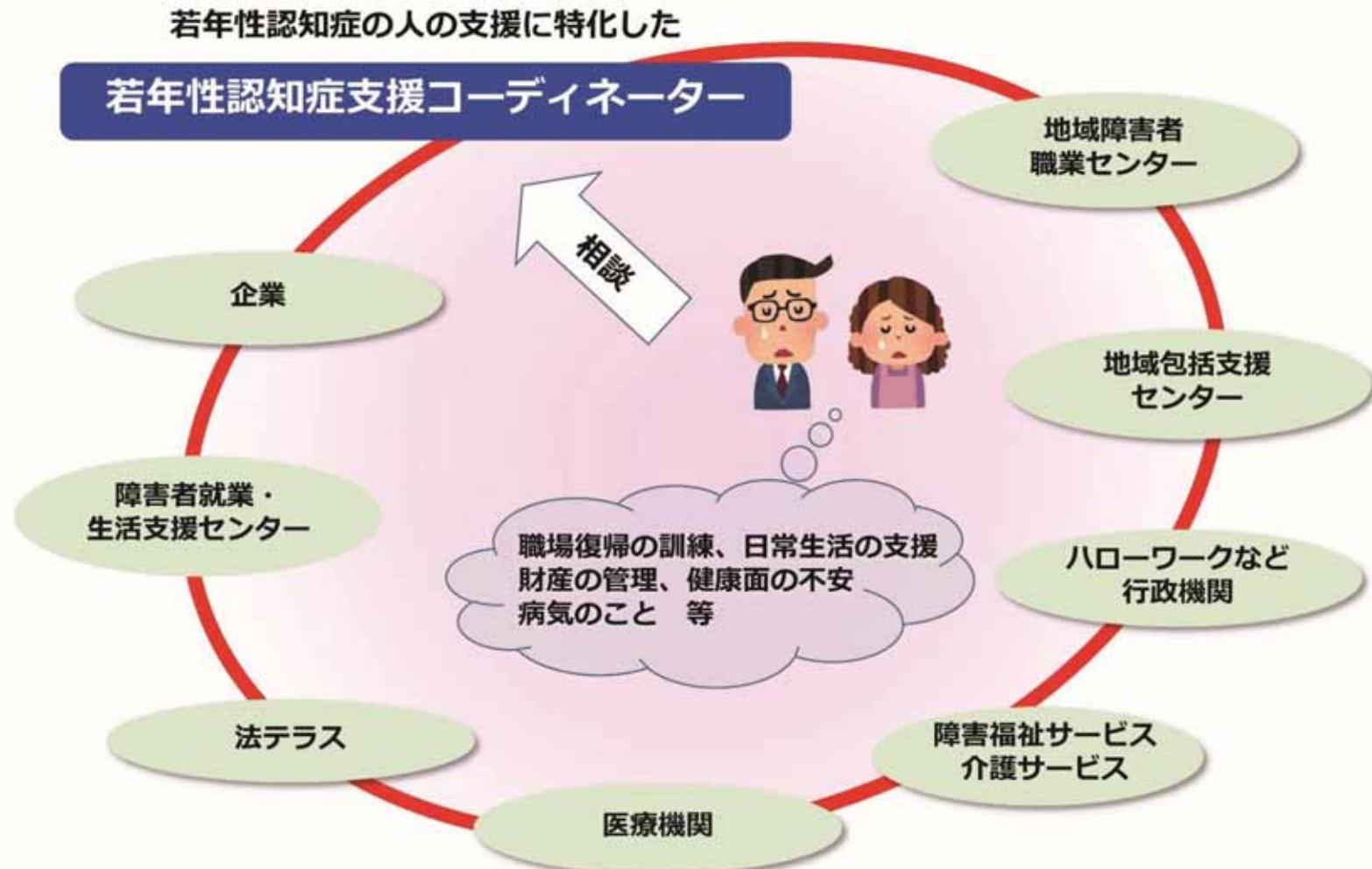
* 2019年11月、認知症疾患医療センターより、支援介入の依頼あり。

59歳の女性、一人暮らし。勤務先の企業の職員が付き添って病院受診し、若年性前頭側頭型認知症と診断。勤務先には20歳代から継続勤務されていた。

企業訪問したところ、営業勤務から事務対応に配置換えし、業務量の軽減を図っている状況であった。本人の意向を尊重し2020年2月の60歳の誕生日月まで雇用対応可能と確認。退職後、翌月からB型就労支援事業所に通所へ。



若年性認知症の人の就労継続に向けて



Obu Center for Dementia Care Research and Practices

若年性認知症の人を支える人々



職場

上司、同僚、労務・人事担当者、
産業医、産業保健師など

本人・家族を含めた
ひとつのチーム！



医療関係者

医師、看護師、リハビリ職、臨床心理士、
医療ソーシャルワーカーなど



障害者就労支援関係者

地域障害者職業センター、ハローワーク、
障害者就業・生活支援センターなど



本人・家族



行政等の支援機関

地域包括支援センター、認知症地域支援推進員、
認知症初期集中支援チームなど



治療と仕事の両立支援関係者

地域産業保健センター、社会保険労務士など

若年性認知症支援
コーディネーター



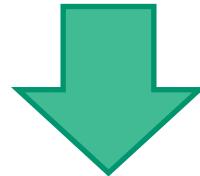
親戚・友人・隣人など



Obu Center for Dementia Care Research and Practices

認知症と診断されても

- ・勤務されている時期から、病院受診・支援の連携を図ることで「働き続けること」が可能になります。
- ・体調に合わせた勤務の調整・配置換え、休職・傷病手当の申請、障害年金申請の準備も可能です。
→ 会社に属している期間の病院受診があると、その時加入していた年金(厚生年金・国民年金)によって、申請条件が変わります。退職する前の受診が重要です!!



※ 子どもの支援、経済的支援、就労支援(就労先との調整)

若年性認知症支援コーディネーターへお繋ぎ下さい！！

沖縄県の就労支援について

年齢	病名	診断年	介護保健	ひとり暮らし	計画相談	現在の居場所
60	FTD	2019	未	○	相談支援員	B型就労支援事業所
63	脊髄小脳変性症	2018	申請→要介護1 ディサービス通所		担当ケアマネ	B型就労支援事業所
56	VD	2019	未	○	相談支援員	B型就労支援事業所
60	AD	2018	申請を提案中		相談支援員	B型就労支援事通所
40	AD (遺伝性)	2012	申請 身体的維持の為 利用考慮中		相談支援員→ ケアマネへ	B型就労卒業 障害→介護 サービスへ
55	AD	2012	申請 利用未		担当ケアマネ	B型就労支援事業所 A型挑戦考慮中
60	AD	2019	未		相談支援員	A型就労支援事業所

58歳 女性 アルツハイマー型認知症

- ・夫が市役所に相談へ来所→健康福祉課より連絡。
- ・数年前に近隣の精神科病院へ数回受診していたが、特に問題ないとの結果だった。
- ・再度、認知症疾患医療センターに受診し確定診断。
- ・居住区の地域包括へ紹介・連携支援者会議開催して地域資源を紹介して居場所を案内頂くが…定着確認出来ずに経過。
- ・ご両親の介護も加わり、家族の介護負担増強。
- ・再度、地域資源の見直し、就労支援手続きを進めて現在見学・体験。B型事業所決定し5日／週通所。

B型事業所に 繋がる

- 相談支援専門員による
「サービス等利用計画」作成
- * 事業所選定：本人の希望、本人の特性に合った所
- * 配慮した点：送迎がある事業所選定
- * 本人の課題：記憶の低下
- ☆ 事業所へ通所して本人の変化
 - 言葉数が増えた
 - メンバーの名前を覚えていることがある
- ★ 困っている事 → 普段精神疾患・知的障害の方ばかり接している為、認知症自体良く分からず。
ADL維持、道迷いのサポートをして欲しい

B型事業所に 繋がる

・B型事業所側

(事業所での課題) 色々な作業に挑戦し、
作業項目を増やし自信が持てる

(配慮した点) • 本人が分かりやすい言葉かけ
• 何度も繰り返し説明する
• 笑顔でやさしく接する
• 役割を持たせる
• 周囲の利用者の協力

(工夫) • 作業しながら、しりとりゲーム

☆事業所へ通所して本人の変化

- 笑顔が増え会話のキャッチボールがスムーズになり
時には冗談を言うようになった。
- 排泄の一連の行動ができる様になった

★困っている事→作業種目が限られる為、作業種目を増やす事

<要望>若年性認知症についての研修会・講演会があれば参加したい

55歳 男性 アルツハイマー型認知症

- ・リハビリ専門病院から相談員を通してオレンジサポート室と居住区の地域包括支援センターへ相談(実家と、家族が住む市町村が異なる)。
- ・(入院前)家族に相談なしで仕事を退職し自宅を出て、実家に身を寄せて畠作業を手伝う。



病気ゆえの身勝手さと理解力の低下で

自己同意して「離婚」

- ・一旦サービス付き高齢者向け住宅に入所
- ・アルコール飲酒…再度、認知症専門病院に受診し、確定診断→入院。
- ・実家に戻る事となり、地域資源の見直しと、就労支援手続きを進めて現在B型事業所決定し通所。

B型事業所に 繋がる

- 先に介護サービス利用しており
担当のケアマネージャーが居た
- 介護支援専門員による
「サービス等利用計画」作成

*事業所選定：本人が「楽しい」と思える所

*配慮した点：短期記憶が難しい。判断能力の低下あり。能力の確認と意欲を引き出せたら賃金等支給も有だと感じる。

*本人の課題：身体的な能力が高いので屋外の活動へ幅を広げたいが
本人の不安で同意が得られない(環境の変化を嫌がる)

☆事業所へ通所して本人の変化

- 毎日の通所がある事で生活リズムが整い、自宅で落ち着いて生活
-

★困っている事→分からぬことだけですが、家族へも困りごとがないか
確認しながら支援している。

若いので本人の気持ち、プライドを大切にしたい。

コーディネーターへは困ったときは相談・助言を頂きたい。

一緒に動いてもらいながらサポートしてほしい

B型事業所に 繋がる

・B型事業所側

- (事業所での課題)
- ・飲酒することによる病状・体調悪化リスク。
 - ・半年以上入院していたので退院後の生活リズムの崩れ。

- (配慮工夫点)
- ・本人が分かりやすいポップ・メモ活用
 - ・自分から訴えないため、体調不良時等は職員が声かけ
 - ・単独の作業困難→周りに同じ作業をしている利用者配置
 - ・自分からの発信苦手→職員が声かけ相談しやすい環境へ

☆事業所へ通所して本人の変化

- ・仲の良いメンバーが出来、周りの方をよく見てくれる。
周囲の利用者と話す口数は少ないが、終始朗らかな表情で
接し、短期間で作業メンバーから一目置かれている。

★困っている事→散髪の促しをしたいが、道順を覚えられるのかが心配。

＜要望＞現在は大きな困りごとはないが、今後その際は相談したい

B型事業所での様子

- B型事業所側

(作業の内容) スペーサー組み立て作業

☆他の利用者は通常、1つの工程のみを受け持つが、彼は3つの工程を自身の判断で適宜、各工程の動向に合わせ場所を変えて積極的に作業を行えている。



就労B型からA型へ挑戦を考慮している事例

※本人の能力に合わせて働き方を選択することも必要である。

40歳 男性 アルツハイマー型認知症（遺伝性）

- ・遺伝性の疾患で発症は30代。
医療の仕事をしていたが、退職。

「人の役に立つことがしたい」

「人を笑顔にさせたい」



- ・福祉的就労B型事業所決定し通所。
身体的な症状もかなり、休職と復帰を繰り返す。
- ・通院、治療、身体的リハビリをしながらの生活。
- ・発病前に取得した「マッサージで周りの人を喜ばせたい」
という気持ちが強くなる。

「働きたい」思いが実現した居場所

☆若年性認知症カフェの中や、
居住区の市町村の認知症カフェで
マッサージのチラシを作成



施術を受ける人がいない場合は、
カフェを支える支援者や、
行政の職員に施術して頂く。

口コミで居住区の運動イベントや
公民館活動でマッサージを披露し
活躍の場となつた。

63歳 男性 脊髄小脳変性症

- 56歳、市民検診で糖尿病発症
→ 血糖値コントロール不良(HbA1c13) インシュリン治療
- 小脳の萎縮が強く、専門医紹介される。
遺伝子検査を経て、確定診断。
歩行時、左右に揺れ不安定 ふらつき著明
介護保険申請し、ディサービス通所(半日型リハビリ)
「外に出たい」「働きたい」「釣りがしたい」
↓
• 福祉的就労B型事業所決定し通所。
友人の協力で 趣味のボーリング、釣り活動参加。

B型事業所へ繋がる

- 先に介護サービス利用しており
担当のケアマネージャーが居た
- 介護支援専門員による
「サービス等利用計画」作成

*事業所選定：できるだけ年齢層が近い方が利用している事業所、
スポーツジム的な備えで機能訓練ができる場所を提案

*配慮した点：進行性の病気であり、転倒の回数も増えてきている。
定期的なモニタリングを実施。

*本人の課題：身体的な課題は多いが、活動意欲が高く、スムーズに
繋がった。

☆事業所へ通所して本人の変化

- 毎日の通所がある事で生活リズムが整い、自宅で落ち着いて生活
- ★コーディネーターへは困ったときは相談・助言を頂きたい。
一緒に動いてもらいながらサポートしてほしい

B型事業所での様子

・B型事業所側

(作業の内容) チラシ折り・チラシ封入・ちんすこうの箱折り等

本人の可能なこと・難しいこと

手先が器用なため全体的に作業を行うことは可能だが、
作業時間が経過していくと失敗することがあります。

失敗例→チラシ折りを数枚同時に折り曲げてしまう。
チラシ封入の向きを間違える。

通所してからの本人の変化

利用開始時は緊張で疲労感も強く休憩時は相談室で仮眠。
時間の経過とともに、仮眠しなくなり他の利用者との交流・笑顔が増えた。
コロナ自粛期間が明けた頃から活気低下

コーディネーターにサポートしてほしいこと

エスケープ時の対応が難しい(マニュアルや対応について教えてほしい)

就労型活動グループ フンドゥー (Fun Do)

認知症と向き合い、仲間と出会い、「働くこと」を通じて目標を見つけ、やりがいをもって活動する「就労型活動グループ」です。



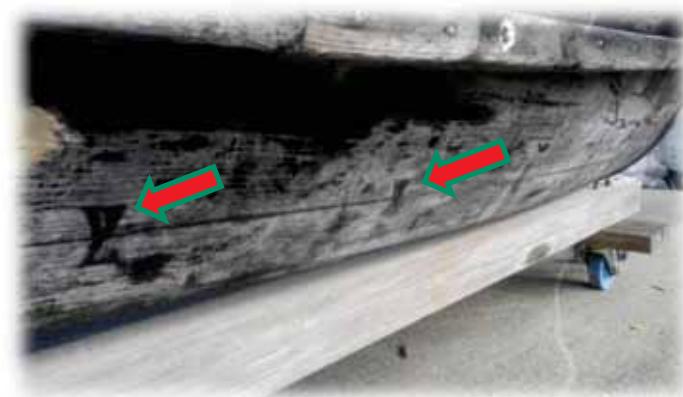
フンドゥーとは？

海人が昔から作っていた船（サバニ）は
鉄の釘を使わず、

『フンドゥー』と呼ばれる菱形の
木の楔をつかって作るため、
長く使われます。

私たちも「フンドゥー」のように
強い絆でつながりを保ち続け、
どんなことも乗り越えていこう！
そして楽しいことをしよう！

サバニ



フンドゥー



メンバーの構成（結成当時）

若年性認知症当事者：10名
ご家族：14名
友人：9名
畠指導員：1名
計：34名



活動の内容



畠作業

収穫した農作物を市場で販売

名刺入れ等の小物づくり

RUN伴運営の手伝い

メンバーのやりたい事への挑戦

売り上げの使い道

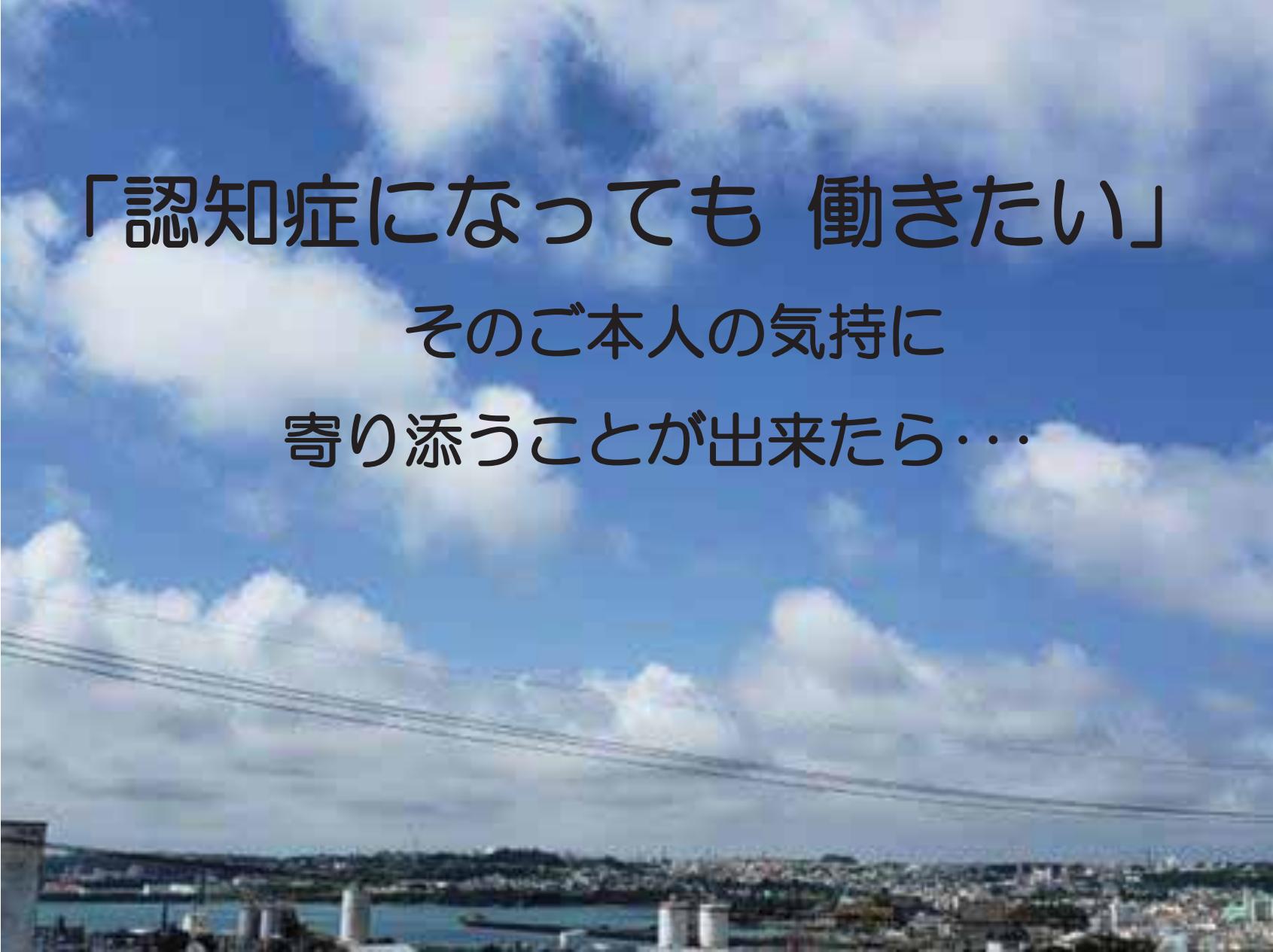
- ① 畑の維持費
- ② 種、肥料代金
- ③ 活動時の飲み物
- ④ 小物づくりの材料
- ⑤ メンバーのやりたい事への
費用捻出。

働く（活動）をきっかけに

- 「若年性認知症の方が
安心した居場所ができる」
- 「若年性認知症の方が
仲間と出会える」
- 「若年性認知症の方が
目標を見つける思い出す」

若年性認知症のご本人、
ご家族、友人で構成された
「自助活動」のグループです！

私たちは、認知症と向き合い、
仲間と出会い、「働くこと」を通じて
目標を見つけ、やりがいをもって
活動しています。



「認知症になっても 働きたい」

そのご本人の気持ちに

寄り添うことが出来たら…